

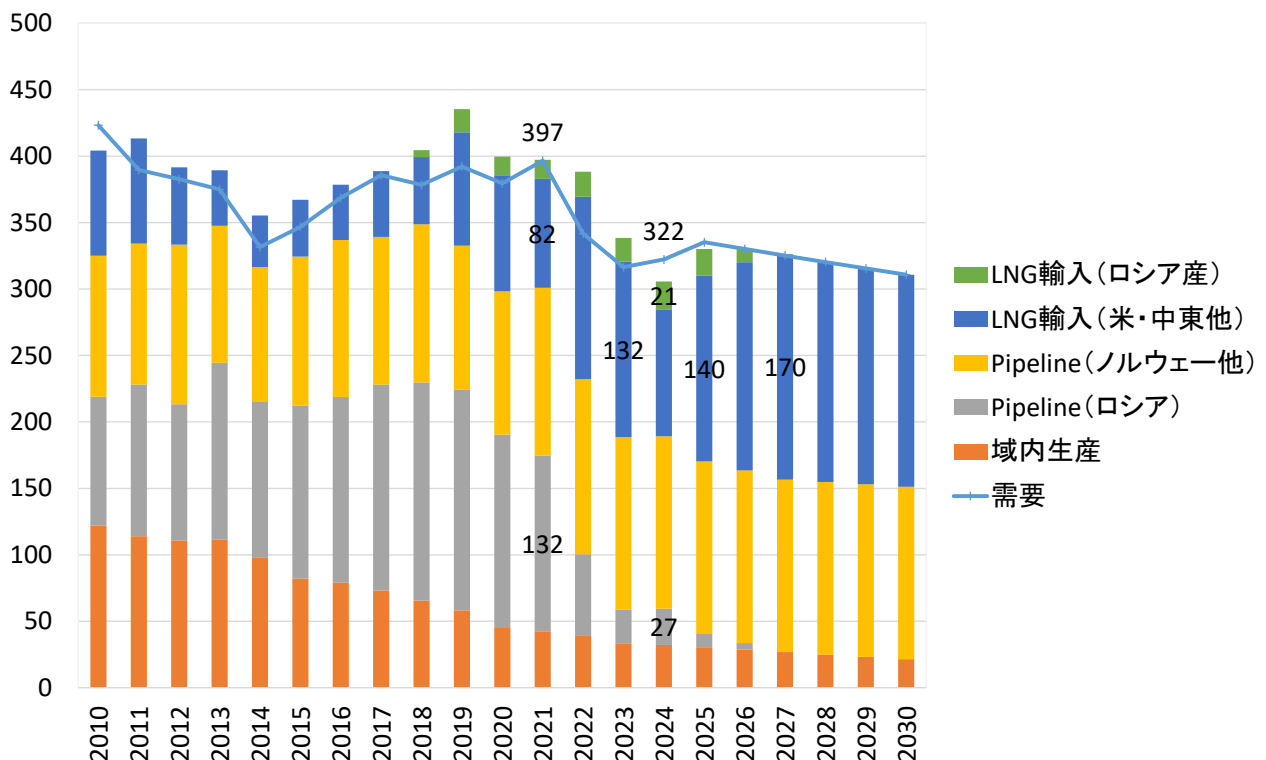
EU はロシア産ガス・LNG を輸入禁止できるか？また世界 LNG 需給バランスへの影響は？

EU は 10 月 20 日、「2028 年 1 月 1 日から、ロシア産ガス・LNG の輸入を禁止する、との規制案で合意した」と発表した。「LNG はそれより 1 年早く禁止する」とも報道されている。EU は、ロシアによるウクライナ侵略を受けて、数年前から、ロシアの化石燃料への依存を低減させてきたが、その最終段階にあたる。では「定量的に見て、EU は本当に輸入禁止することができるだろうか？」、また「その場合、世界の LNG の需給バランスへの影響はどうだろうか？」

第一に、「EU は禁輸できるか？」に関しては、筆者は「なんとか、できるだろう」と考える。まずロシア産パイプラインガスに関して、EU は 2022 年のウクライナ侵略以降、同輸入量を 2021 年の 132Bcm（十億 $\text{m}^3$ ）から 2024 年に 27Bcm まで、既に大幅に削減できている。また、残る主要なパイプラインルートであった「ウクライナ経由」のガス供給契約が 2024 年末に失効したため、「ロシア産パイプラインガスの禁輸」に向け、着実に進展する。まだ「トルコストリーム」というパイプライン経由のガスが残るが、同分は“EU メンバー外”であるトルコでの消費が主体になるだろう。

次に、LNG に関しては、以前、EU は先の「ロシア産パイプラインガスの大幅削減」分を賄うために、「ロシア以外からの LNG」の輸入量を 2021 年の 82Bcm から 2023 年 132Bcm まで急増させ、世界の LNG 価格高騰につながったことは周知の通りである。またその間の EU の「ロシア産 LNG」輸入量も、2024 年で 21Bcm と、ほぼ横ばいが続いている。「Yamal LNG の長期契約をどうするか？」など難しい問題も残っているが、関係する TotalEnergies は EU 以外への販売など対策案を発言し始めている。また「2027 年頃と言うと、米国産等 LNG の供給が目立って増え始める時期」であるため、「EU がロシア産 LNG から脱却することは可能だろう」と、筆者は考えている。

EU(27)の天然ガスの需要と供給(単位:Bcm、榊本試算)



第二に、「EU がロシア産 LNG 等を禁輸した際の、世界の LNG の需給バランスへの影響はどうだろうか?」。現状、LNG の需給バランスの見通しは、「2026 年頃～2030 年頃に向け、米国やカタール等からの新規 LNG の供給開始が多いため、供給過剰感がでるだろう」というのがコンセンサスである。ただし、EU がロシア産 LNG 等を禁輸した場合、EU の「ロシア以外からの LNG 輸入量」は 2025 年の 140Bcm から 2027 年に 170Bcm へ、30Bcm (=LNG 換算で約 20 百万トン) も増えることになる。この間、米国やカタールなどから約 70 百万トンの新規 LNG が生産開始されるが、その 3 割もが EU 向けに必要となるため、「コンセンサスで言われている供給過剰感を、“やや緩和する”ことになる」と筆者は考えている。結果として、「2026～2027 年の LNG スポット価格は、前回、新規 LNG 供給増により供給過剰感があった、2015～2019 年頃の\$7～\$8/mmbtu 前後ほどまでには、低下しないだろう」と筆者は見ている。

榎本量平

主席アナリスト兼部長 調査事業部 INPEX ソリューションズ

略歴：東大工学部卒業、外資系証券会社などを経て現職、アナリスト経験約 25 年



(以上)

免責事項：本稿は著者の個人的見解であり株式会社 INPEX ソリューションズの見解ではありません。

本稿に関する講演、寄稿、受託調査など対応しております。

ご相談・お問い合わせは下のリンクより承ります。

ご相談・お問い合わせ